

キウイフルーツかいよう病について

5月2日に、国内で未発生だった「Psa3型」によるキウイフルーツかいよう病が本県で確認されました。キウイフルーツは庭先果樹として栽培されており感染防止が必要ですでお知らせします。

(1) キウイフルーツかいよう病 Psa3 型

- Psa3 型は 1984 年中国で発生。ニュージーランド、ヨーロッパなど 5 か国。
日本では愛媛県が初発生
- Psa1 型は昭和 55 年静岡県発生。現在 18 県

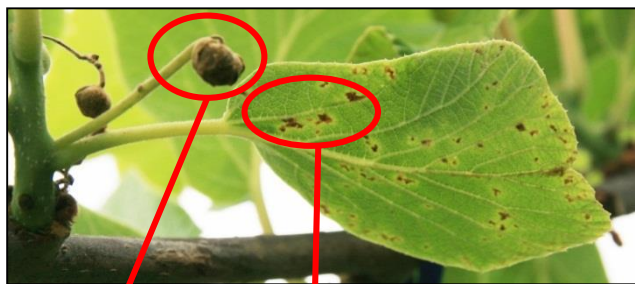
(2) 発病状況

- 幹・枝・葉・花など、果実以外のほとんどの部位で発生します。感染した枝は亀裂や切り口から細菌液を浸出し、発芽しなかったり枯死したりします。
- Psa3 型は病原性が強く、発病した樹は収量が低下し、特に中国系キウイ（ゼスプリゴールド等）は収量の低下が著しく、枯死に至ることもあります。
- 病原細菌が風雨等によって飛散し拡大します。感染すれば治療方法はありません。

(3) 発病の確認方法



枝枯れ、芽枯れ



蕾（花）の枯死 葉の斑点

※PSA3 では葉の斑点が大きくなり他の病気（花腐細菌病やかびによるものなど）に類似している場合がある。



樹液の流出

(写真提供：愛媛県果樹研究センター)

(4) 防除対応

- ①発病樹は早期に伐採し発生源を絶つ必要があります。伐採は園地のキウイフルーツ樹を全て伐採し、残さは適正に処分する必要があります。
- ②発病樹の伐採に用いた器具は必ず消毒しなければなりません。
- ③発生予防は銅剤（コサイド 3000、IC ボルドー）、抗生物質（カスミン液剤等）を使用します。これらの農薬の使用はラベルに従って使用してください。

詳しくは愛媛県病害虫防除所のホームページでご確認ください。

- この病気はキウイフルーツの果実には発病しないので、食べても人体への影響はありません。
- 動物や野菜に感染することはありません。